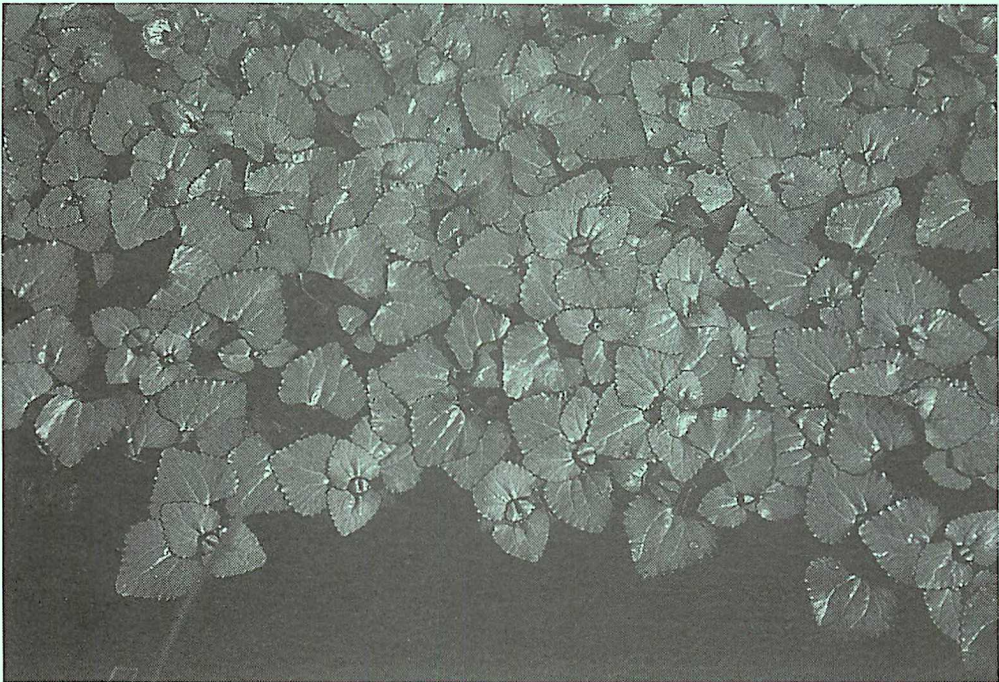


ISSN 0288-139X

水草研究会会報

67号 (1999年5月)



Bulletin of Water Plant Society, Japan

No. 67 (May 1999)

水草研究会

— 目 次 —

森 由紀：石垣島ブネラ湿地の水草相	1
下田 路子：ヨーロッパ各地の農村と湿地—オランダ，イギリス，イタリアにて—	9
上赤 博文：佐賀県の「ヒシモドキ」と「デンジソウ」，公共工事で消滅の危機	24
角野 康郎：『日本水草図鑑』重版における修正箇所	31
水草に関するホームページ	32
水草関連文献リスト	35
新刊紹介	8, 30, 36

【表紙写真】ヒシモドキ（佐賀県佐賀市，1995年8月20日）

本誌24ページからの上赤氏の報告にある産地で，水草研究会のエキスカージョンの際に撮影した写真である。佐賀市内の水路は私が初めて訪れた1970年代後半には，まだどこをのぞいても豊かな水草群落が見られた記憶がある。ホテイアオイやチクゴスズメノヒエが優占するクリークが多かったように思うが，それも佐賀平野の「クリーク」の特徴的な景観であった。しかし，水路の改修が進み，佐賀平野の豊かな水辺の自然が次々と失われてきた。そのような中で1995年の全国集会では，各所にすばらしい水草の産地が残っているのだということを堪能させてもらった。ヒシモドキの群落も，参加者が歓声を挙げた場所である。そこへ飛び込んできたのが今回の知らせ。今や国内で数カ所になったヒシモドキ産地のひとつが，危うく消えかけた事態であった。

上赤氏の文にあるように，マスコミの取りあげ方もすさまじかったようだが，行政の対応の機敏さは特記してよい。ずるずると責任を転嫁して，どうにもならない場合も多いのが現実だからである。行政の認識を高めてもらうことの必要性とともに，このような事態に対し，私たちがどのように対処すればよいかも考えさせられる教訓的な事例となった。

【写真と文 角 野 康 郎】